

株式会社ギャプライズ

サプライズ休暇 / ライズ休暇 / おしゃれ半日休暇

いつも心にエンタテインメント

当社は電子商取引のプロデュースや運用サポート、ウェブマーケティング、LPO(ランディングページ最適化)、解析ツールの提供と支援を行っています。「いつも心にエンタテインメント」を企業理念とし、遊び心はもちろん、「もてなし」の心も大切にしながら事業に取り組んでいます。休暇制度もこの理念の下に整えていきました。

経営理念にちなんだ3つの休暇制度

当社の社名は「ギャップ、サプライズ、ライズ」の造語です。何かにギャップ(差)を感じたとき、サプライズ(気付き)が起こり、ライズ(成長)につながると考えています。その実践の機会となるのが、「サプライズ休暇」です。

取得の要件として、他のメンバーに休暇の理由をプレゼンテーションします。事前に資料を提出して、全体会で5分ほどの発表を行い、賛同が得られれば取得できます。これまでに「一人暮らしの娘を心配して地方から上京する両親を驚かせる」「妹の大学の卒業式に親代わりとして出席する」などの取得事例がありました。

取得のためにプレゼンテーションを行う休暇制度を導入した目的は、休む理由を他のメンバーに知ってもらおうと休暇を取りやすくなるという効果があるからです。また、休暇の後に「どうだった?」と声を掛けることで、コミュニケーションのきっかけにもなります。利用はおおむね年に1回です。

■ サプライズ休暇事例

① 親代わりに妹の卒業式に出たい!

早くにご両親を無くされたAさんは、妹の卒業式に親代わりで出席してあげたい。

② 結婚前に岩手に住む両親とディズニーランドにいきたい!

結婚前の独身最後の時に親孝行をかねて、東京にくる両親をディズニーランドに連れて行ってあげたい。

③ 婚約者の誕生日にひまわり畑を見に行きたい!



メンバーが休暇を取りたい理由をプレゼンテーションする「サプライズ休暇」申請書。熱意が許可のカギ。

「ライズ休暇」はセミナーや勉強会に参加するための休暇制度で、希望日の1週以前に上長に申請し、認められれば取得できます。業務に関するものには費用も会社が出しますし、業務に直接関係がなくても取得できます。Webデザイナーが美術展に行くという理由で取得したこともありました。月に1~2回利用されています。

エンタテインメントには、もてなす心だけでなく、外見、つまり見た目も大切です。そこで、洋服を買いに行くことを目的とした半日の休暇制度も導入しています。これが「おしゃれ半日休暇」

👉 ここに着目!! (部分とリンクしています)

- 導入に至るまでの背景
- 導入の目的
- 導入のプロセス
- 導入後の効果
- 今後の目標

です。バーゲンの多くは金土日に行われていますが、土日は人が多く、良い品物は売り切れることが多いのです。しかし、この休暇を利用することで、金曜日に買い物ができます。私自身も、ふらりとバーゲンに行くことがありますよ。利用は年に1~2回ほどで、もちろん男性でも取得可能です。

買い物に限らず、たとえ勉強目的だとしても、メンバーにとって休暇制度は利用しづらいものです。だからこそ、あえてこうした制度を設け、会社側から「休みを取っていいよ」というメッセージを発信することが大切だと考えています。

制度のスクラップアンドビルドは続けたい

当社には、「改善パワーアッププラットフォーム」という制度があります。言わばメンバーがボトムアップで改善提案できる「電子目安箱」です。さまざまなアイデアが寄せられ、良いアイデアはすぐに採用します。もしうまく機能しなければ、すぐに止めればいいのですから。

休暇制度に関してもメンバーのアイデアを大切に、トップダウンではなくボトムアップが必要に応じて見直していきたいと考えています。今後、企業の規模が大きくなっても、制度のスクラップアンドビルドを続けていくことは可能でしょう。そうした会社でありたいと思っています。

代表取締役会長
土屋 裕樹さん



会社データ
【事業内容】Web営業支援、ネット通販コンサルティングなど
【従業員数】50名(2013年10月1日現在)
【年次有給休暇の取得率】57%
【年間休日数】124日
【URL】http://www.gaprise.com/

制度活用事例



取締役副社長通販事業部部长
鈴木 隆司さん
【サプライズ休暇】

彼女のご両親に交際のごあいさつができた

2007年夏に「サプライズ休暇」を取りました。目的は、交際していた女性のご両親にあいさつをし、農家を営むご両親に私の仕事を理解してもらい、交流を深めることです。当時は会社の創業期で忙しく、休暇もなかなか取れませんでした。そのため九州に住むご両親に会えずにいたのです。そこで3連休に「サプライズ休暇」を合わせて4連休を取り、九州へ飛びました。

短い滞在では表面的なあいさつしかできなかったでしょう。しかし、3泊したことでお父さんとじっくり話すことができました。酒を酌み交わし、話が深夜に及ぶことも。彼女からも「あんなに楽しそうな父は見たことがない」と言われたほどです。私も修学旅行以来の九州でリフレッシュでき、彼女にけじめをつけたことで仕事の意欲も高まりました。今は部下にも積極的に利用を勧めています。